

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	
法人名	社会福祉法人 自立共生会
事業所名	社会福祉法人 自立共生会 ひかりの里 3階
所在地	三重県桑名市新西方3丁目187番地
自己評価作成日	平成 28年 9月 14日
評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2015_022_kihon=true&JigvosvoCd=2470100658-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 28年 10月 5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念である「お年寄りの底力を活かす」を実践するため、お年寄りの知恵や昔取った杵柄(竈でのご飯炊き・梅干し作り・しめ縄作り・門松作り・餅つき・鏡餅作り・おやつ作り・着物のたたみ方・抹茶の立て方等)を学童保育の子供達や若い職員に教えて頂くなど三世代・四世代交流を日常的に行い、日々の生活の中で役割を持ち・感謝される存在となって頂けるよう支援しています。事業所内保育の幼児との地域防犯パトロール・地域清掃や自治会の防災講習や夏祭りへの参加・小学校の運動会へ学童保育児童の応援に行ったり小学校の祭りで出店する等地域に出かけ、餅つきや夏祭りに地域の方を招待して地域との交流を深めお年寄りが地域の一住民としてその人らしい生活を維持していけるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

デイサービス利用の障がい児や学童保育の子供たちと共に過ごす時間を毎日持つことにより、三世代が自然に交流する生活や暮らしが営まれている。子供の宿題をみたり、おしゃべりをしたり、一緒に遊んだり、一緒に散歩に出かけたり、子供と接することにより和やかで穏やかな時が生まれ、落ち着きを得ている利用者が多い。職員も20代から60代と幅広く在籍している。利用者の日常活動を表にして全員がバランス良く実践できるように支援している。3ユニットにはそれぞれ特色があり、より希望に沿った支援に繋げている。年2回家族会でホテルと事業所でみんなと共に食事を取り、行事の写真などをスライドで紹介したりする時間を設けている。3分の2の家族が参加している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は「お年寄りの底力を活かす」という法人理念を共有し、幼老統合の取り組みを実践している。利用者の残存能力を引き出し、役割を持って頂くことで自信回復と生きがい作りにつなげていくよう取り組んでいる	利用者全員がそれぞれ出来ることを分担し、互いに教え合い、学び合い、助け合って共に生きていくという普通の暮らしの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域清掃や祭りに参加したり、近所のクリーニングやさんと挨拶を交わす等地域と交流している。自治会の腕章を付けて、事業所内保育の子供達と一緒に防犯パトロールにも出かけている。包括支援センター・新西方地区自治会連合会協力の「認知症みんなが声掛け訓練in新西方」に参加した。	各階で個別に自治会に加入し、パトロールの腕章を受け取り、近くの公園までの通学路などを児童と共に散歩しながら交代で防犯パトロールしている。自治会の各当番も行っている。また地区の行事にも色々参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学、傾聴ボランティア、見守りボランティア・行事の際のボランティア・散髪ボランティアの受入・夏祭り、餅つき糖行事に近所の方を招待するなど地域の方々に事業所ないを見て頂き、又認知症サポーター養成講座を開催し認知症の人に対する理解が地域に広がるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には桑名市地域介護課、北部東地域包括支援センター、第三者委員、自治会長、理事長、ご家族に参加して頂き、取組の報告や意見を教えて頂きサービス向上に繋げている。	行政・自治会・家族等が参加して年6回開催している。利用状況や活動報告を行ったり、家族から行政へ直接質問もでき、より理解を深める機会となっている。	運営推進委員会に参加いただいた地区の方々により事業所の事を知っていただく機会にしたり、専門的な知識をみなさんと共有する勉強会の開催などを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	桑名市徘徊SOS緊急ネットワーク事業協力機関となっている。桑名市中央包括支援センターと連携して認知症サポーター養成講座を開催した。伊賀市成和地区民生児童委員の視察見学時に日ごろの取り組みを紹介した。	運営推進会議に出席を得たり、利用者の生活保護や成年後見の利用に関して相談や指導・連携を取っている。また、徘徊SOS緊急ネットワークや介護教室・福祉用具の使い方講習会などにも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年身体拘束防止の研修を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者の単独外出による転落等危険防止のため玄関にセンサーチャイムを設置している。やむをえず身体拘束を行わなければならない場合はご家族にも十分説明し、承諾を得て記録に残すようにしており、身体拘束0への取り組みをしている	入居時不穏な状況があり危険防止のために家族の了解を得て玄関の施錠を行うこともあったが、色々働きかけることにより半月ほどで落ち着き、今は穏やかに明るく生活でき施錠はしてない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年ウエルネスグループ全体で研修会を行い職員の意識を高め、ケアの話し合いを行い、利用者の状態把握に努め、虐待防止の徹底を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について毎年研修を行い、参加できなかった職員には資料を配布して周知を図り、活用できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約日時を予め決め、運営方針・権利・義務等について十分な時間をとって説明し、改訂の際は書面で伝え、ご理解頂けるよう努めている。利用者、ご家族が不安や疑問点を聞きやすい雰囲気づくりを心掛けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「ご意見箱」を設置している。家族会総会やケアカンファレンス参加時面会時にご意見をお伺いしている。ご意見ご要望は管理者・職員で共有し改善していけるよう取り組んでいる	面会時や電話での連絡で、利用者や家族の希望・意見を聞き取っている。希望により孫の結婚式や葬儀に職員が付き添って参加してもらうなどの支援も行ったこともある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回行われる部門ミーティングに各階職員に参加してもらい、職員からの意見や提案を聞き、運営に反映させている	毎月提出する「月間報告書」に職員全員が意見や提案を行い、それに対して検討や返答がされている。また職員はそれぞれ委員会に所属して運営にも参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の活動を「月間報告書」に記入提出してもらい、努力手当や賞与に反映させている。また職員の意見を取り入れたキャリアパスの充実にも取り組んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回ウエルネスグループで研修を行い、職員のスキルアップに力を入れている。また認知症フォーラム等外部研修参加の機会を確保している。働きながら資格取得できるよう勤務等配慮し、実務者研修を受講できるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県介護福祉士会初任者研修参加、地域密着ケア地域包括ケア全国大会で発表。日本介護福祉士会全国大会IN三重で発表。医師会主催認知症市民講座認知症支援とまちづくり参加。三重県地域密着型サービス協議会や他機関との情報交換やネットワーク作りをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活歴等をご家族やご本人から教えて頂き、要望や不安に対処できるよう努めている。ご本人の思いをゆっくり聞く機会を持ち安心できる関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時の管理者による説明だけでなく本人と関わることの多い職員もご家族と話し、信頼関係を築けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネージャー・医師・入居前のサービス事業者とも連携をとり、本人と家族が必要としている支援を見極め、ミーティングで話し合い、安心して過ごしていただけるよう努めている。ご家族の希望に沿い入居時の支援を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人や家族からの情報を基に個々の利用者の状態に合わせた役割を持って頂いている。「昔取った杵柄」を活かし梅干し作り・畑仕事・おやつ作り・和服のたたみ方・抹茶の立て方等人生の先輩として様々なことを若い職員に教えて頂いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やカンファレンスに参加して頂いた時にご家族の意見や要望を伺いケアプランに盛り込んでいる。面会時食の細かい方に好物を持ってきて頂いたり、デンタルリンス・無添加せっけんを持ってきて頂く等職員と一緒に支援して頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	商店や神社など地元を感じられる場所への外出を企画している。ご友人やご親族との面会時にはゆっくり話をして頂けるよう配慮している。またご家族との外出ができるよう働きかけている	特別に機会を作るのではなく、生活圏に職員と共に日常的に出かける事を行うことにより、馴染みの人や場所との関係継続を行っている。友人の面会もよくあり、馴染みの美容院へ家族と共に行く利用者もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を把握し、穏やかに過ごしてただけよう席を配置したり職員が橋渡し役となって一人ひとりが欠かせない存在と感じて頂けるよう支援に努めている。思いやりある暖かい言葉がけを利用者同士でして頂ける場面もみられる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設入居のため退居された後も必要に応じて本人や家族と今後のサービス利用における相談や支援を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の何気ない会話の中で思いや希望を受け止めたり、入浴時や夜間なかなか寝付かれない時など1体1でゆっくり話せる機会に個々の思いを聞き出せるよう努めている	希望や要望は利用者から職員へ日常的によく発信出来ており、それらを「申し送りノート」に全体と個別に記載し、職員全員で把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族やケアマネージャーから生活歴等お聞きしている。ご本人との普段の会話の中でも嗜好・特技・馴染みの物・昔の出来事の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に健康状態・ご本人の言葉や活躍の様子を記録し、申し送りを全職員で情報共有して心身の状態を把握するように努めている。往診時には療養シートを用いて伝達漏れや指示漏れが無いようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のケアカンファレンスに、介護計画見直し月の利用者のご家族にご参加いただき要望を伺っている。主治医・看護師・薬剤師・管理栄養士・作業療法士・介護士の意見を持ち寄り本人の現状に即した介護計画の作成に努めている	月1回のケアカンファレンスにナース・栄養士・家族も参加し、色々意見を交わしながら利用者全員分を実施している。モニタリングも行い、それらを介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録・業務日誌・療養シートに気付いた事や日々の様子を記入し、情報共有して実践に活かしている。ケアの変更が必要になった場合は医師・看護師・薬剤師・管理栄養士と連携し介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所内保育の幼児との防犯パトロールや昼食会を行っている。夏祭り・餅つき大会・流しそうめん等で学童保育の児童達との交流を図っている共用型デイサービス・障害者の日中一時支援事業も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校の運動会や祭りへの参加・傾聴ボランティア・散髪ボランティアとの交流を行っている。また日々のゴミ出しや地域清掃への参加により地域貢献し地域の人々との交流を楽しんで頂けるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医(整形外科)・消化器内科・脳外科・耳鼻科・循環器内科のDrによる計画的な訪問診療がある。又歯科・眼科・皮膚科等は可能な限り本人のかかりつけ医を受診できるよう支援している。初診時には主治医の診療情報提供書を持参できるよう手配している。行くことが困難な方には往診を依頼している	母体であるウエルネス医療クリニックの各科と、他院の脳外科・循環器・歯科・眼科の往診が受けられる体制がある。その他の専門医は家族対応で受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体であるウエルネス医療クリニックとは24時間医療連携を行っており担当看護師に随時健康状態の変化等を報告し相談することで適切な治療や看護を受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者とは情報の共有を図り適切な治療を受けられるようにしている。又病棟看護師との良好な関係が築けるようGH担当看護師を通して情報の提供方法等の改善を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時と毎年5月に終末期に向けたアンケートに記入していただいている。看取りが必要な状態に近づいた場合は看護師と施設職員立ち合いで主治医からご家族に説明が行われ、ご家族ご本人の意向に沿って納得のいく最期を迎えられるようにしている。職員には法人の方針・看取り支援の在り方について「看取りの指針」に沿って研修を行っている	看取りの指針はあり、入居時から話し合っているが、利用者の変化に応じ随時確認し直しを行っている。職員の半数は既に看取りの経験があるが、更に研修を繰り返し行い不安解消を図り、何かの折には管理者が駆けつける体制が整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループ内研修で看護師や消防署による心肺蘇生・AED使用方法・緊急時の対応等救命研修を毎年行っている。利用者別にリスクマップを作成し情報を職員が共有し、事故発生を未然に防ぐ対策を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域密着型サービス協議会三重県支部防災訓練に参加。自治会主催防災講習参加。夜間想定火災・昼間想定地震火災避難訓練を行い消防署の指導により消化器の使用訓練も行っている。自治会の「災害時住民台帳」に登録している	防火訓練は年6回・防災訓練は1回・夜間想定訓練も行っている。消防署からは1・2階は取り敢えず外へ、3階は広いベランダへ避難するように指示があった。事業所が地元自治会の避難場所として指定されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりを尊重し、ご本人の意思を確認し支援している。毎月のカンファレンスでは認知症についての研修を行い、経験の浅い職員にはアドバイスをしている	利用者にアンケートを行って確認したり、毎年研修を繰り返し行い具体的な実践例による学習をしている。また気になる時にはお互いに注意し合いながらプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の普段の言動に留意し、何気ない日常会話から思いや希望を引き出せるよう働きかけている。中々思いを表出できない方とは職員と1体1でゆっくり話せる機会を設けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	パトロール・行事・外出等にご本人が意思決定して参加できるよう支援している。利用者一人ひとりの生活リズムを大切に、希望に沿った過ごし方ができるよう対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度散髪ボランティアに来てもらいご本人の希望に沿って散髪してもらっている。又パーマをかけたい方にはご家族の協力を得て行きつけの美容院に行けるよう支援している。行事には好みの着物を着て頂き、希望者にはお化粧をして頂いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行い、献立に反映している。誕生日のはご本人の希望のおやつを用意している。調理の準備から味付け・盛り付け・片付けで個々の能力に合わせ活躍して頂いている。又幼児との食事会も行っている	利用者に食事について半年に1回意見を聞き話し合っている。誕生日は本人の希望を取り入れている。毎日庭の釜戸でご飯を利用者が分担して炊き、食事作りにも出来る事で参加している。野菜も利用者と共に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導で栄養バランスの取れた食事を提供している。食事の進まなくなった方には管理栄養士による居宅療養管理指導で相談し、栄養状態が改善した方もみえる。個々の好みに合わせた飲み物を提供し、水分不足になりがちな方にはゼリーやジェル状に加工して提供する等水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前に嚥下体操を行っている。毎食後自立度の高い方には声掛け、介助の必要な方には職員による仕上げ磨き・クルリーナブラシによるケア等それぞれに応じた口腔ケアを行っている。就寝時には義歯を洗浄液につけ預かっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの場所が分かるよう張り紙をしている。一人ひとりのブリストルスケールと排泄時間を記録し、個々の排泄パターンを把握している。適時の誘導を行いトイレでの排泄の支援をしている	利用者の半数が布パンを使用し自立排泄である。朝食時に牛乳やヨーグルトを取り、散歩や転倒防止体操などで体を動かし薬に頼らない排泄を支援している。便の形状を記号化し分かり易く表示して支援に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	好みの飲み物をこまめに提供し水分摂取に努めている。米に寒天を混ぜて炊いている。毎日適度な運動ができるよう支援し、起床時に冷たい牛乳・ヨーグルトを提供し、適時にトイレ誘導をおこい自然排便ができるよう取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調に留意し、脱衣場の温度・好みの湯音・入浴のタイミングに配慮し、職員とゆっくり会話をしながら入浴できるよう努めている	午後から2日に1回、同性介助を基本とする入浴を実施している。また、しょうぶ湯やゆず湯などの季節湯も行っている。2階は機械浴となっており、車いす利用者にも入浴を楽しんでもらえる様配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調に合わせて昼間居室で休んで頂く時間を設けたり、居間でリラックスして頂けるよう音楽を流したりしている。昼間外気浴を勧めたり活動量に配慮し、夜居室の照明や室温を調節して自然な入眠ができるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の居宅療養管理指導を受け主治医・薬剤師の指示の下、服薬支援を行っている。副作用・用法・容量の理解に努め、症状に変化がある場合は医師に報告し、速やかに対応するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族から個々の生活歴や能力を教えて頂き又日ごろのコミュニケーションの中でご本人が得意なことを教えて頂き食事の支度片付け・洗濯干し・掃除等家事や野菜作りに力を発揮して頂いている。パトロールや昼食会での幼児の見守りは特に楽しみにしている役割である		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日のパトロール・野菜の世話・買い物に戸外へ行って頂いている。青梅の収穫へ外出し、梅干し作りに取り組んでいる。初詣・お花見・家族会と合同でホテルでのお食事会も楽しんでいただいている。又ご家族との外出・外食もしていただいている	基本午前中は防犯パトロールを兼ねた散歩に出かけ、日常的に買い物も利用者と共に出かけている。また法人や小学校や自治会などの行事には積極的に参加している。遠くへ行くばかりが外出ではないと捉えて支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	商店街やスーパー・薬局・コンビニやパン屋へ出かけ、ご自分で品選びをしてお買い物ができるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に添い、ご家族や大切な人と電話や手紙のやり取りができるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間のテレビの音量や室温・エアコンの風の当たり具合等調整し、快適に過ごしていただけるようにしている。居間から見える位置にプランターを置き野菜の成長の様子が見えるようにしている。夏にはゴーヤを植え緑のカーテンで涼しい空間づくりをした	共用の場所は常に消毒剤入りの水で掃除を行い清潔を保つようにしている。食堂兼居間は南側から緩やかな光が差し込み、利用者はほとんどがこの居間兼食堂で過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダにベンチを置き、一人でのんびり日光浴したり、気の合う利用者同士でおしゃべりを楽しんだりできるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者利用者の使い慣れた家具や好みの物を持ってきて頂き、居室内で居心地よく安心して過ごして頂けるよう工夫している	居室はエアコン・ベット・押入れの備え付があり、各自慣れ親しんだ家具・椅子・テレビ・衣装ケースなどを持ち込み、その人らしい雰囲気が出ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は手すりの設置・家具の固定等安全面に配慮している。外階段は両側に手すりを設置し、段の端が分かりやすいよう蛍光色の滑り止めテープを張り安全に階段の上り下りをしていただけるようにしている		